

やつと思いで出せた記憶

日立一高附属中学校

三年

赤野坂 あのさか

美海 みう

私は毎年三月十一日の十四時四六分に黙
 構をす。あの日のから十年か経った今年
 は、クラスメイトたちと学年末に近いか
 思いででも語ろう！とセテ不通話をしてい
 た。それがい飲物を持ってきて飲ませよ
 うに乾杯し心理テストをしたり雑談をした
 リと盛り上がり上がった。だが、やはりあの日

の話題に、た。誰か言いはじめたのは分
 かりな。自然と、みんな黙静しよ
 と、いり流れになった。反打する人は誰
 も、みんなが真剣な顔をしていた。住ん
 る場所には、いろいろな、あの時にいた
 場所だ。7月、いろいろな、あの日に
 した。同じで、それがい、あの日の二
 と、思い出して、いた。四時四六分にな
 り、あれから、私も、十四時四六分にな
 り、な。目が開いて、私は、ひつたり十年前

の当時のことを思い出し、津波にのまれてしまつた人々が救われる建物の下敷きになり、
そく組つた人々の思いを馳せた。とても長い
一分だつた。
フラッシュバックした十年前のその時、私
は幼稚園のグランドの真ん中で遊んでい
た地震が起つた時見たのは、ロアの上空
なだれ落ちる書類、机の下に入る余裕もな
く床に伏せる先生が、大きく揺れるアリの
塀だつた。こんなにもはつきりと思ひ出せる
ものに、淡々と書いて、色も音もないサ
イト映画のような記憶だつた。
黙禱の本とは空気を交えてまたにぎやかに
飲社会が始まつた。通話が開きになつた。
もなかに私は、おのれ、の後のことにな
つた。考えつた。今まじつと、と思ひ出せな
か、たのみに、突如思ひ出した。地震、直後に
幼稚園にストロウがされて、いたお菓子と先生が
か配、くたす、たことと、船水車の列に並
んで、いたとき、近く、飲食店の方から、

1 スとおにを頂けたことだ。経験したこ
とのなによりな災害にパニックにたたり
りし、自分のことだけでも手一杯だ。たはが
だ、しかし、幼稚園の先生方は不安と恐怖
で泣いてる私たちを笑顔にしようとしてく
ださった。飲食店の方は、何も食べが並んで
いる私たちを、地域の皆さんにはいってもお世
話になつておりました。左か右か、と気が
たつた。そのこと、思い出して、私は泣き
うになつてしまつた。いつまでも口にしつ
思ひかり、か支え合ひの心を、改め了身に
しかつて感心じられた。漠然と使つて、いた言葉だ
か、実際にすぐ困つて、いると、またその心を
感じた。たま、おれだ、け救われた。たたりか。
十年の節目を経つた。あの日、か、成長し
た。受けとつて、いた。優しさを、おれだけありか
たりも、おれだ。たか、おれ、か、おれ、か、おれ、か、
の、こと、おれ、か、り、に、な、ら、が、に、周、り、を、気、づ、か、い、誰
に、て、も、優、し、く、思、ひ、か、り、支、え、合、ひ、
の、心、を、持、つ、て、接、し、て、い、こ、う、と、思、う。